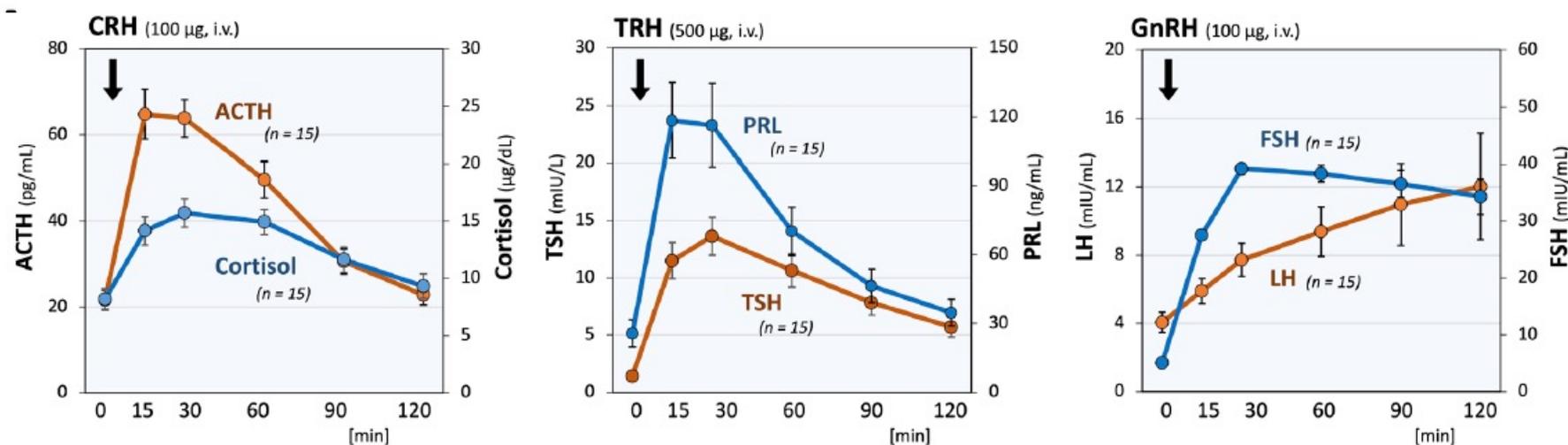


コロナ後遺症における内分泌異常と視床下部の関連について

- ✓ **新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の罹患後**には倦怠感、頭痛、不眠、ブレインフォグなどといった多彩な症状が長期間持続・遷延する例が存在します。当科では2021年よりコロナ後遺症・Long COVIDを専門的に診療する外来を設置し、診療と研究にあたってきました。
- ✓ 病態に内分泌系の機能異常、特に視床下部・下垂体・副腎 (HPA) 軸の機能低下が疑われるケースがあり、既報でも仮説として注目されていますが、**内分泌動態の検査**に関するデータは限られています。



- 後遺症患者1251人のデータから、**血中ACTHまたはコルチゾール低値の患者が207人 (19%)** 含まれていました。
- 内分泌精査のために下垂体刺激試験を実施した患者では、刺激後の前葉ホルモンの反応性は保たれていました。
- しかし、下垂体前葉ホルモンのうち、ゴナドトロピン (LH・FSH) の分泌反応において、特徴的な遅延反応を示したことから、**視床下部障害の関与の可能性が示唆**されました

コロナ後遺症の内分泌異常では、視床下部機能の低下の関与が示唆されました